

風土記の丘の花だより²⁷²

今、そしてこれから見られる植物(2025年5月10日)

ゴールデンウィークも過ぎ、山は初夏の装いです。足もとにも、木の梢にもきれいな花が咲いて、私たちを楽しませてくれています。



キンランが咲きました、前号では白いギンランを紹介しましたが、今回は黄色いキンランです。昔から、銀は「白金・しろがね」金は「黄金・くがね」と言われ、白と黄色は銀と金に例えられてきました。来園者の方にお聞きすると「前は、金も銀ももっといっぱいあったんやけどなあ・・・」おっしゃいます。珍しくかわいい花を独り占めしたくなる気持ちは分かりますが、その喜びはもっと多くの皆で共有した方が良くに決まっていますよね。



珍しい花の次は、どこにでも生えているありふれたハハコグサです。黄色ですが、これにはキンと付きませんね。春の七草の「ごぎょう」です。全体に細かく柔らかな毛が生えていて、お母さんの温もりを感じさせます。母子草とはよく名付けたものです。このごろ、これに似て、花が茶色の外来種のセイタカハハコグサ(右下の写真)も増えてきています。風土記でもたまに見かけます。でもこれは母の温もりを感じにくいですね。



母に続いて父を紹介します。チチコグサです。全体にヒョロヒョロしています。そして、ハハコグサよりも白っぽく見えます。上のキンラン、ギンランもそうですが、この草は父と母、どちらも対になる名前が付いていて面白いですね。チチコグサには、モドキもあります。チチコグサに似ていないのにチチコグサモドキといひます。さらに、それにはいくつかの種類があり、葉の細長いタチチコグサモドキや花が赤っぽいウスベニチチコグサモドキというものもありますよ。また機会があれば紹介しましょう。



背の高い木、シュロに花が咲いています。花と言っても花びらがきれいな花ではありません。上部の葉の付け根あたりから、まるで数の子みたいなものがいくつも出ています、それが花です。シュロはヤシの仲間で、雌雄の株があります。写真は雄株です。昔は、多くの家の庭に植えられていました。この繊維で縄やたわしなどを作ったのです。私の母親が昔、この葉を編んで「はえたたき」を作っていたことをうっすらと覚えています。和歌山県の紀北地方では昔から、シュロの繊維を使った製造業が盛んでした。今では多くが化学繊維に

かわっていますが、今でもシュロ製品は根強い人気があるようです。

松下